



▲2007年ジャパンカップ(G1)

世界に挑んだ 優駿たち

— Vol.17 —

▼2007年ドバイ・デューティフリー(G1)



中東の夜空に輝く「月」 アドマイヤムーン

初のG1勝ちが海外でのレースだった馬としては、引退レースとなった2001年の香港ヴァーズを制したステイゴールドがよく知られているが、2007年のJRA賞年度代表馬に輝いたアドマイヤムーンも同様に、自身初のG1制覇を海外で成し遂げている。

デビュー時はそれほど大きな期待をかけられていなかった本馬だが、2005年の7月にデビューすると、新馬戦、オープンのクローバー賞、札幌2歳Sと3連勝で、早くも重賞ウイナーとなった。年末のラジオたんぱ杯2歳Sは2着に敗れるが、3歳となった2006年には共同通信杯、弥生賞と重賞を連勝。クラシック戦線の主役と目されるようになった。そして迎えた皐月賞。単勝オッズ2.2倍の1番人気に推されて出走するが、後方からよく追い込んだものの、メイショウサムソンの4着に敗退。続く日本ダービーでは3番人気に支持を落とし、ここでも自慢の末脚は不発に終わり、7着に敗れた。

陣営は、3000mに距離が延びる菊花賞は不向きだとし、秋は中距離戦線への参戦を表明。そのステップとして、ただ1頭の3歳馬として出走した札幌記念で、アドマイヤムーンは古馬勢を一蹴して優勝。その後は宣言どおりに天皇賞(秋)へと進み、ダイワメジャーの3着に健闘。次走は初の海外遠征となる香港Cに臨み、凱旋門賞2着馬であるブライドと大接戦を演じたが、わずかに短距離差及ばず2着に惜敗した。

4歳となった2007年は京都記念からスタート。ここを鋭い末脚で制す

ると、予定どおりにドバイへと遠征し、ドバイ・デューティフリーへと挑んだ。当年のこのレースには、日本からダイワメジャーも参戦したほか、米国のG1馬イングリッシュチャンネル、ラヴァマン、ミエスクズアブルーヴァルなども出走していた。しかしアドマイヤムーンはそれらの強豪をものともせず、中団の外めから豪快に末脚を伸ばすと、追いつく南アフリカのリングリを半馬身抑えて優勝。念願のG1タイトルを中東の地で手にした。

その後、転戦した香港でクイーンエリザベス2世Cを3着とすると、帰国初戦の宝塚記念で国内G1を初制覇。天皇賞(秋)は6着に敗れたが、続くジャパンカップでは先行策から押し切るという積極的なレースを見せて、見事に三つ目のG1タイトルを奪取。自ら花道を飾り、ファンに惜しまれながら、このレースを最後に現役を引退した。

2008年から種牡馬入りしたアドマイヤムーンは、ハクサンムーンなどのJRA重賞勝ち馬を出している。今後、父の歩んだ跡跡を追って海外へ雄飛する産駒が出てくることを望んでやまない。

全成績		中央14戦9勝 海外3戦1勝				
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手
2005. 7.10	函館	2歳新馬	1800	1	1:54.4	本田 優
8.27	札幌	クローバー賞	1500	1	1:29.5	本田 優
10. 1	札幌	札幌2歳S(GⅢ)	1800	1	1:50.4	本田 優
12.24	阪神	ラジオたんぱ杯2歳S(GⅢ)	2000	2	2:01.9	本田 優
2006. 2. 5	東京	共同通信杯(GⅢ)	1800	1	1:48.4	武 豊
3. 5	中山	報知杯弥生賞(GⅡ)	2000	1	2:01.5	武 豊
4.16	中山	皐月賞(GⅠ)	2000	4	2:00.4	武 豊
5.28	東京	東京優駿(GⅠ)	2400	7	2:28.8	武 豊
8.20	札幌	札幌記念(GⅡ)	2000	1	2:00.3	武 豊
10.29	東京	天皇賞(秋)(GⅠ)	2000	3	1:59.0	武 豊
12.10	香港	香港C(GⅠ)	2000	2	—	武 豊
2007. 2.17	京都	京都記念(GⅡ)	2200	1	2:17.2	武 豊
3.31	ドバイ	ドバイ・デューティフリー(GⅠ)	1777	1	1:47.9	武 豊
4.29	香港	クイーンエリザベス2世C(GⅠ)	2000	3	—	武 豊
6.24	阪神	宝塚記念(GⅠ)	2200	1	2:12.4	岩田 康誠
10.28	東京	天皇賞(秋)(GⅠ)	2000	6	1:59.1	岩田 康誠
11.25	東京	ジャパンカップ(GⅠ)	2400	1	2:24.7	岩田 康誠

※レース名は当時の表記による

アドマイヤムーン 牡 鹿毛 2003年2月23日生

調教師: 松田博資 馬主: 近藤利一氏 → ダーレー・ジャパン・ファーム(有)

父 エンドスウィープ 1991 鹿	Forty Niner	Mr. Prospector
	Broom Dance	File
		Dance Spell
母 マイケイティーズ 1998 黒鹿	サンデーサイレンス	Witching Hour
		Halo
	ケイティーズファースト	Wishing Well
		Kris
		Katies